

# かけだしの頃

(若者に向けて)

今だから話せる  
ゲンバの失敗



20代の頃  
現場事務所の前での1枚

三井住建道路株式会社  
工事本部・安全環境部長

## 伴瀬竹一

1973(昭和48)年に三井道路(現 三井住建道路)株式会社に入社。名古屋支店および関西支店工事部長・営業部長等を経て、現在に至る。



入社して三年目くらいのころです。名古屋港の護岸、コンテナヤード(埠頭ヤード)でのことでした。最終の仕上げとしてアスファルト舗装をするという仕事で、私はとても苦い経験をしました。この場合のアスファルト舗装は、護岸の防油堤の計画高(構造物をつくる際に、その構造物の基準となる場所の計画する高さを標高で示した値)が決められているなかで仕事を進めるべきですが、この仕事を始めるとき、ヤードの既設床版に先行工事での「不陸」がありました。つまり、平滑ではないところがあったのです。しかし、当局の床版の検査が済んでいるということもあって、この不陸も、床版の検査済みである以上は、問題にするレベルではないのだろうと判断し、設計書にしたがって仕事を進めていきました。しかし、進めていくうちに問題が発生しました。厚さ5cmで舗装を進めていたのですが、計画高とおりの仕上げにするためには、さらに厚くしなくてはならない部分が出てきてしまい、予定よりはるかに多くの材料が必要となってしまったのです。

結局、金額も大きなものとなってしまいました。作業においても多大なロスを生じさせてしまいました。それからは必ず事前のチェックを欠かさないように心がけています。やはり、何事も基礎が一番大事です。ちなみに、現在は測量や事前調査を外注の業者さんにやっていただいで、仕事に入る前に検討するというスタンスが主流です。そうして施工計画を作成し検討して未然にこうしたミスを防止し、手順を組み立てていくわけです。

当時は、シビアに求められる舗装精度についてはかなり重点を置いていました。それが大切なことはもちろんですが、「とにかく、こちらは設計どおりの仕事をすればよいのだ」などと考えていたと言えぬのかもしれない。まさか、検査済の前段階で間違いが生じていたなんて思いませんでした。

しかし、現場は一つとして同じところはありません。「現場は生きもの」と言っています。このことを肝に銘じておけば、「もしかしら、こんな問題が起きるかもしれない」と事前に予測し、それに備えておくことができたかもしれません。リスク意識が欠けていたのでしょうかね。

若い方には「やる気・根気・元氣」が大切だということを言っています。それに加えて、日ごろから上司・先輩・関係の方に相談することを心がけ、幅広い経験を積むことから、このようなミスを防ぐため、リスクを常に意識しながら行動していただきたいと思います。